

令和7年度三浦半島宮陵会の集い

ヴェルクよこすかに於いて盛大に開催

令和7年度神奈川大学三浦半島宮陵会の集い「総会・講演会・懇親会」が7月6日(日)、京急横須賀中央駅から徒歩5分の「ヴェルクよこすか(横須賀市立勤労福祉会館)」に64人が参加して開催された。

進行役の嶋田順子副会長(S47年短商卒)の司会で始まった総会には会員54人が参加し、田原会長の挨拶の後、会則により原柳作副会長(S46年英語英文卒)が議長を務め、令和6年度事業報告、同収支決算報告・監査報告、会則の追加(個人情報保護規定の追加)、役員選任、令和7年度事業計画、同収支予算の6本の議案が内藤正久事務局長(S51年機械工卒)ならびに西脇幸二会計(S53年貿易卒)から提案され、堀越昌樹会計監査(S62年法律卒)が監査意見を述べた後、いずれも承認可決された。

講演会には54人が参加し、平山昇・神奈川大学国際日本学部准教授が『横浜から見えるビールの歴史』と題し90分にわたり講演された。(要旨は3頁)

懇親会は同会場で、ケイタリング方式で行った。これには6人の女性を含む59人が参加し、堀越昌樹さんの司会で、古川勝彦初代会長(S40年経済卒)が主催者挨拶。当会会員でもある石渡卓・神奈川大学理事長、小林二三夫・神奈川大学宮陵会副会長の両氏から来賓挨拶を頂き、今回初参加者5人の紹介、他の地域組織の参加者9人の方々の紹介、懇親会で演奏予定の神大ジャズ研究所の4人の学生の紹介があった。92歳で当日参加者最年長の川瀬元夫さん(S31年経済卒)が乾杯の音頭をとり歓談が始まった。会の中では3人の新役員、初参加者、他の地域組織の方々の挨拶も頂戴した。

宴たけなわで登場した「神大ジャズ研究所」(2020年創部・部員30人)の代表者4人による生演奏を堪能。中締め挨拶は、新会員の名塚友則さん(H28年国際文化交流卒)、最後は恒例で、司会の堀越昌樹さんの指導により、校歌と応援歌の合唱で締めくくった。(塩塚)

ご挨拶

会長 田原 清彦

神奈川大学三浦半島宮陵会の集い(総会・講演会・懇親会)にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。会長を務めさせていただいて



る、昭和49(1974)年3月貿易学科卒の田原清彦でございます。早いもので卒業してから51年が経過しました。

さて本日の集いには、大学から来賓の石渡卓理事長、宮陵会本部から小林二三夫副会長の御来場をいただき、神奈川県内の他地域組織からも会長や事務局長など、多数ご参加いただいております。心より御礼を申し上げます。

三浦半島宮陵会は、来年の2026年に創立20周年を迎えます。一方、宮陵会本部も2年後に創立90周年を迎えます。宮陵会本部では6月14日に定時総会が開催され久保清治会長が退任、内田清蔵氏(S50建築卒/神大特任教授)が新会長に就任されました。母校の神奈川大学は3年後に創立100周年を迎え、現在の卒業生は23万人を超え、現役学生は1万8千人を抱える総合大学として成長を続けています。地域組織としての三浦半島宮陵会、宮陵会本部、そして神奈川大学にとって、新たな節目が連続していく今後3年間となります。

神奈川大学は、校歌で「世界は呼ぶ」と歌われているように、グローバル感覚を校是とする大学であると思います。三浦半島地区は、1853年にペリーが浦賀に来航して日本の国際化が始まった象徴的な地域でもあります。

県内の地図を俯瞰すると、犬の形をしていて三浦半島はちょうど犬の前足に当たるところにあり、先を見据えて前進するフォワードとしての象徴的な地域とも言えます。犬の前足は英語でPaw(お手!)と言い、将来に向かってPaw!、三浦半島Paw!の気概で、皆様と一緒に頑張っていく所存です。本日は学生時代の思い出を語り合い、懇親を深めていただく場になれば幸いに存じます。皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

2024 年度収支決算報告(2024. 4. 1～2025. 3. 31)

科 目	24 予算額	24 決算額	増 減	備 考
収入				
会費	210,000	165,000	-45,000	
助成金	90,000	122,640	32,640	宮陵会
雑収入	75,000	146,713	71,713	祝金他
合計	375,000	434,353	59,353	
支出				
会議費	70,000	66,420	-3,580	会場費
通信費	100,000	98,198	-1,802	
印刷消耗品	35,000	27,905	-7,095	
雑費	150,000	223,135	73,135	謝礼他
合計	355,000	415,658	60,658	
収支差額	20,000	18,895	-1,305	
前年繰越金	1,761,986	1,761,986	0	
次年繰越金	1,781,986	1,780,681	-1,305	

2025 年度収支予算(2025. 4. 1～2026. 3. 31)

科 目	25 予算額	24 決算額	増 減	備 考
収入				
会費	160,000	165,000	-5,000	
助成金	120,000	122,640	-2,640	宮陵会
雑収入	150,000	146,713	3,287	祝金他
合計	430,000	434,353	-4,353	
支出				
会議費	70,000	66,420	3,580	会場費
通信費	100,000	98,198	1,802	
印刷消耗品	30,000	27,905	2,095	
雑費	220,000	223,135	-3,135	謝礼他
合計	420,000	415,658	4,342	
収支差額	10,000	18,695	-8,695	
前年繰越金	1,780,681	1,761,986	18,695	
次年繰越金	1,790,681	1,780,681	10,000	

2025 年度事業計画

1. 親睦を深めながら母校の発展に寄与し、会員増強への基盤づくりを図る。

- ・会員に対して、ホームカミングデー、神奈川県ブロック会イベント、大学祭(横浜・みなとみらいキャンパス)、

箱根駅伝沿道応援、硬式野球部などの応援、神奈川大学主催の文化講演会や吹奏楽部定期講演会などへの参加を促す。

- ・会員増強を図るため、当会エリアの非会員で65歳を迎えた卒業生に「新年会」や「集い(総会・講演会・懇親会)」等の案内を郵送し、出席を促す。

- ・女性の卒業生に対しては、女性同士の交流が図れるようLINEグループの拡充を行う。

2. 新年会の開催(2026年1月25日)

3. 設立20周年記念事業の検討

- ・2026年6月、当会設立20周年に向けて、記念誌発行のための原稿募集。記念品・記念講演会の内容検討。

4. 広報活動の継続と同好会への支援

- ・会報「三浦半島宮陵会だより」を9月と3月の年2回、オールカラーで発行。

- ・バージョンアップした「三浦半島宮陵会ホームページ」で適宜活動状況を発信する。

- ・「LINE」を使って会員同士の情報を共有。

- ・会員相互の親睦や他組織の卒業生とも交流を図るために、ゴルフ同好会、歩こう会、テニス同好会、釣り同好会の行事を開催。

5. 現役学生や卒業生との交流を図り連携を深める。

6. 役員会(4・9・12・3月)開催。必要に応じ臨時役員会を開催する。



左上/司会の嶋田順子さん 右上/挨拶する田原清彦会長

左下/議案を説明する内藤正久事務局長 右下/総会の様子

講演会開催

「横浜から見えるビールの歴史」

神奈川大学国際日本学部准教授 平山 昇 氏

講師プロフィール：1977 年長崎県生まれ。専攻は日本近現代史。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。駿台予備学校講師、立教大学兼任講師、九州産業大学准教授などを経て、2020 年 4 月より神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科准教授。主な著書に「初詣の社会史 鉄道と娯楽が生んだナショナリズム（東京大学出版会 2015 年）」、「鉄道が変えた社寺参詣（交通新聞社親書 2012 年）」がある。



講演要旨 / 平山 昇

私は長崎出身であり、横浜の老舗「麒麟ビール」と「崎陽軒」の両者が長崎とも縁深いことから、両者の組み合わせに格別の思いを抱いている。

「麒麟ビール」のシンボル「聖獣麒麟」はグラバー園で有名な長崎の商人トーマス・グラバーが提案したラベルに由来し、「崎陽軒」の「崎陽」は創業者の故郷である長崎の古称から採られたものだからである。



さて、横浜は日本のビール産業の重要な拠点であり、その歴史をたどるとウィリアム・コーブランドの存在に行き着く。ノルウェー出身のコーブランドは、1864 年に横浜に渡来し、山手に「スプリング・ヴァレー・ブルワリー」を設立。ここはのちに麒麟ビールの前身「ジャパン・ブルワリー」が創業する土地であり、「ビール井戸」や記念碑が今も残っている。コーブランドは最終的に経営難により廃業したが、彼の醸造技術は多くの日本人に継承され、日本のビール産業発展の礎を築いた。

彼の死後、ジャパン・ブルワリーの社員が葬儀を取り仕切ったことも、この功績の深さを物語っている。

明治期には地ビールブームが全国に広がり、「桜田ビー

ル」「浅田ビール」など国産ビールが輸入品と肩を並べる品質に成長し、100 以上のブランドが乱立したが、1901 年の麦酒税導入により、多くの中小業者が撤退し、大資本による市場寡占が進行した。

1906 年にはサッポロ、エビス、アサヒを擁する「大日本麦酒」が誕生し、後に麒麟ビールも買収対象となるが、総代理店・明治屋の支援と三菱の後押しにより独立を守り、「麒麟麦酒株式会社」として再出発した。

宣伝合戦も過熱し、明治屋は 1909 年にイギリスから「ナンバーワン自動車」と呼ばれる宣伝車を導入した。その車体はビール瓶型で、全国を走り回り、話題を集めた。

また、横浜開港 50 年記念祭では、地元ゆかりある「弁財天」を使った麒麟ビールの広告を新聞に掲載し、大日本麦酒の「恵比寿」に対抗するなど、地域色を活かしたブランディングが行われた。

1923 年の関東大震災では、麒麟の山手工場が壊滅し、再建は断念した。代わって生麦に新たな横浜工場を建設し、1926 年に操業を開始。震災後もビール市場は拡大し、各社はポスターや駅ホームでの販売など多様な販売戦略を展開していく。かつては列車の窓からビールを直接購入できる時代もあったが、今ではその光景は見られなくなった。

ところで、現在でも麒麟のビール瓶は「なで肩」であることが特徴だが、これにも歴史的背景がある。昭和期にはビール業界の自主統制や戦時統制の中で他社は共通瓶を使用する一方、麒麟は独自瓶を堅持したのである。これは、かつて合併や統制に応じず独立を守り続けた企業精神の象徴ともいえる。

コーブランドと勝俣ウメがしずかに眠る横浜外国人墓地は、日時限定で一般公開をおこなっている。この墓地からビール井戸と麒麟園公園までは歩いて 10 分もかからない。これらの場所をめぐるあつとで、横浜のビールの歴史に思いをはせながらゆっくりとビールを味わってみてはいかがだろうか。



懇 親 会 開 催

〔懇親会のひととき・ご歓談の様子〕

ここでは懇親会の模様を、写真によって紹介します。



↑ 司会を務める堀越昌樹氏



↑ 挨拶をする古川勝彦氏



↑ 挨拶する石渡卓理事長



↑ 小林二三夫宮陵会副会長



↑ 紹介する他の宮陵会地域組織の参加者の皆様



〔乾杯の音頭〕

今回ご出席の中で最
年長の川瀬元夫さん。
川瀬さんは昭和 31 年
経済卒の御年 92 歳を
お迎えになりました。
益々お元気です。
元気の秘訣を教えて
いただきました。



〔ジャズの演奏〕

懇親会では、神奈川大学ジャズ研究所の学生による演奏を堪能しました。演奏して頂いたのは、経済3年の吉田智紀さん、人間科学3年の堀口大地さん、宮澤拓実さん、歴史民俗2年の西村稲さんでした。



挨拶する新役員の箕輪義夫氏(㊥上 S63 貿易卒)、浜付朋武氏(㊥上 H8 国際経営卒)、初参加の藤原佳枝氏(㊥下 R7 国際経営卒)の皆さん。

↓ 中継挨拶の名塚友則さん

↓ 応援歌のリダー鈴木和夫氏



三浦半島宮陵会の集いに参加して

横浜北宮陵会 副会長 鳥居 武 (S46 電気卒)



今回、初めて参加させていただきました。当日は大変暑い日で、横須賀中央駅よりヴェルクよこすかまで歩いただけでも汗が流れてきました。

総会は60余名の大勢の参加者があり、この多さに驚きました。総会内容は大変充実していました。

講演では国際日本学部の平山先生の「横浜から見えるビールの歴史」のタイトルで講演が始まりましたが、話しのテンポも良く聞いていて心地よかったです。麒麟ビール会社

のこだわりの話等聞いているうちに、だんだんのどの渴きを覚えグビーと一杯飲みたい気持ちになってきました。

懇親会においては、石渡理事長、小林宮陵会副会長の挨拶で始まり、諸先輩方々と交流を深めることができ、神大ジャズ研究所の心地よい生演奏を聴きながら多くの方々と談笑することができました。

私の所属する横浜北宮陵会では毎年「留学生を交えたバーベキュー」のイベントを開催しています。これは横浜北宮陵会に加えて、川崎市宮陵会、町田宮陵会、神大フロンティアクラブとの共催で行っています。



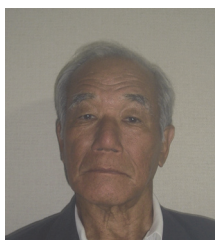
今年も11月15日(土)に開催する予定です。上の写真は昨年の様子ですが、日本語しか話せない私でも充分コミュニケーションをとることができ、参加者は和気あいあいと懇談し、最後はピンゴゲームで盛り上がりました。

三浦半島宮陵会の皆様も時間が許しましたら、是非一度参加して一緒に楽しんで下さい。

最後になりますが今回、三浦半島宮陵会総会に参加することができまして、大変有意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました

三浦半島宮陵会同好会通信 活動状況を紹介しす

●ゴルフ会世話人:古敷谷 均(昭和44年機械卒)
メールアドレス: hi562toshi@yahoo.co.jp



連絡先:090-7838-3682

オープンコンペは、5月と10月に開催し、卒業生に関わらず、どなたでも参加できます。ゴルフ好きの友人やご家族をお誘い合

せの上、気軽にご参加ください。

改めまして、この度ゴルフ同好会のキャプテン&世話人に就任した古敷谷 均です。中川六郎さん、佐藤武さんが、引き続きサポートしてくれることとなっています。

2025年5月15日(水)に葉山国際カンツリー倶楽部で3組9名が参加して、第50回三浦半島宮陵会オープンコンペが開催され、土屋晴男さんが優勝、田原清彦さんが2位、古敷谷均が3位となり、ニアピン賞は佐久間克己さんでした。下記に土屋さんの優勝者の弁を掲載します。

次回10月25日(水)も葉山国際で9:08エメラルド・インスタート。ご参加をお待ちしています。



〔優勝者:土屋晴男氏(写真下左)のコメント〕



第50回記念三浦半島宮陵会ゴルフ会のオープンコンペに参加させていただき、優勝できた事、身に余る光栄であり心より嬉しく思っております。

長きに亘りオープンコンペの歴史を紡いでこられた歴代の幹事様、会員の皆様に深く敬意と感謝を申し上げます。

50回と言う節目に、天気にも恵まれ、相模湾が一望できる葉山国際カンツリー倶楽部の素晴らしいゴルフコンディションの中、楽しく気持ちよくプレーできた事、母校神奈川大学の大先輩の皆様と親睦を深めることができた事も、嬉しく思っております。

今後もコンペに参加できるようゴルフの腕を磨き、体力づくりに励みたいと思います。ゴルフを通じて会員の皆様との交流を深め、宮陵会の発展に微力ながら貢献できるよ

う精進してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。本大会の開催にご尽力いただいた皆様に感謝申し上げます。

●テニス会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)

メールアドレス: s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp



連絡先:090-5581-1043

テニスは、月4回大津公園テニスコート(京急新大津駅下車)で木曜15時から行なっています。

今年は8月3日(日)・4日(月)

に神奈川大学箱根保養所に1泊して、町営仙石原テニスコートを利用し、テニス合宿をしました。

合宿には、会員(古川・砂川・鈴木和夫・西脇・塩塚)のほか大津公園コートでプレーしている渡辺さん・中村さん、神奈川区の久米信行さん、藤沢市の指旗博さんも参加され総勢9名となりました。プレー前には指旗さんのレクチャーを受け、その成果もあり、日頃テニスに縁のない古川さんの絶好調のプレーも見ることができました。

高原でのテニスは涼しさを感じますが、やはり、終了後の温泉とビールの喉越しはたまりません。夜も更けるまで、楽しい会話も堪能しました。皆様も如何ですか。



●歩こう会世話人内藤正久(昭和51年機械卒)

メールアドレス: naitoumasahisa@hotmail.com



連絡先:090-6479-3297

歩こう会は、会員は勿論のこと、ご家族やお友達の方々にも参加していただける楽しい会です。

当会は、年2回(春・秋)歴史や話題性のあるテーマを決めて歩いたり、三浦半島の景勝地や自然を楽しんだり、季節の味覚を味わっています。同時に、会員の交流にも重点を置いて企画しています。

秋の歩こう会は、11月8日(土)「武山ハイキングとみかん狩り」を企画しました。(詳細は同封の別紙「ご案内」をご覧ください)。沢山の応募をお待ちしています。

●つり会世話人:塩塚定雄(昭和48年貿易卒)

メールアドレス: s.shiozuka@aria.ocn.ne.jp

連絡先:090-5581-1043

現在休止中です。企画が出来上がりましたらご案内しますので、是非ご参加ください。



歩こう会報告

「追浜・鷹取山コース」

桜が満開の2025年3月30日(日)曇りのち晴の中、横須賀ウォーカースガイドで紹介された「追浜 鷹取山コース」で歩こう会を開催した。参加者は7名だった。

参加者は、10時半に京浜急行逗子線・神武寺駅改札口前に集合し、参加記念品を受け取って出発した。逗子参道の逗子中学校付近の桜が満開で、日が差して綺麗だった。

逗子ホームせせらぎから神武寺までは、前日までの雨で足元が滑りやすくなっていたが、上り坂なので助かった。

724年に行基が創建したと伝わる神武寺は、境内に鐘楼や桜門、県の重要文化財に指定された本堂の薬師堂が建ち、山岳信仰寺院の雰囲気味わうことができた。薬師堂の脇から鷹取山までは急登が続き、参加者は息を整えながら汗を拭きふき上って行った。途中鎖場を慎重に上り、11時50分に鷹取山頂上広場に到着した。

鷹取山は全山が凝灰岩からなる山で、頂上付近は石切場の跡が残っており、垂直にカットされた岩壁を沢山のクライマーがトレーニングの場として利用していた。

各自持って来た弁当を食べてゆっくりした後、展望台に登った。上ると360度のパノラマが広がり、富士山は見えなかったが、房総半島まで一望することができた。

12時40分に磨崖仏を目指して山を下り始め、徒歩7分で切り立った岩壁に彫られた高さ約8m、幅4mの巨大な弥勒菩薩尊像の磨崖仏に到着した。1960年頃に彫られた新しい像だが、参加者は圧倒的な大きさに驚かされた。

続いて整備された歩道や階段を下り、大正末期に国道建設中に複数の骨が発見され、地元の人が石塔を建て供養した首斬観音をお参りした。ここからは平坦な道を15分歩いて追浜駅に全員無事に到着し、13時45分に解散した。

鷹取山は標高139mと低い山だが、急峻な山道や名所・見どころのある変化に富んだハイキングコースだった。参加者一同、少し疲れはしたが、満開の桜を愛でながら歩き、楽しい1日を過ごすことができた。(内藤)



神武寺「桜門」にて

〈本会のホームページのリニューアルについて〉



当会のホームページ(HP)がリニューアルしました。

「神奈川大学三浦半島宮陵会」で検索し、ご自分のPCや携帯にダウンロードして、

いつでも検索できるようにしてください。

メニューとして、ホーム、宮陵会とは、ご報告、会則・役員、だより、記念誌、入会・お問合せとなっています。

当会報「神奈川大学三浦半島宮陵会だより」は創刊号から現在までのバックナンバーがすべて閲覧することが出来ます。是非ご覧ください。

20周年記念誌への投稿のお願い

当会は2026年6月に設立20周年を迎えます。そこで記念誌を発行し、会員の皆様から「会員の声」と題して原稿を募集いたします。投稿の詳細は次の通りです。

▽発行：2026年6月 ▽体裁：A4版20～24頁
▽部数：300部 ▽字数・内容：600字以内 内容は自由（但し、明らかに虚偽・誹謗・中傷・差別する内容を含んだもの、営利活動または政治・宗教活動を目的としたものは掲載できません） ▽写真1枚（顔写真や記事に関する写真など） ▽原稿の送り先：郵便番号、住所、氏名、年齢、卒業年・学科、連絡先を記載のうえ、原稿と写真を別々にメールに貼り付けてお送り下さい。

▽E-mail：ryu-hara@ozzio.jp 原 柳作 宛 ▽締切：2026年1月31日 ▽その他：原稿は一部手直しをする場合があります。皆様からの投稿をお待ちしております。

2026（令和8）年「新年会」開催日決定

2026年「新年会（講演会・懇親会）」を1月25日（日）にヴェルクよこすかで開催いたします。楽しい催しも企画して、皆様のご参加をお待ちしております。是非スケジュール表にお加えください。

ご案内の往復ハガキは、12月下旬までに郵送いたします。たくさんの参加をお待ちしております。

～ 編集後記 ～

本号は、先日開催されました令和7年度三浦半島宮陵会の集い（総会・講演会・懇親会）の様態を掲載させて頂きました。会員の皆様を始め、県内各地の宮陵会の皆様方、多数のご参加、誠に有難うございました。

本会報も年2回発行し本号で37号となりました。35号より印刷は外注し、オールカラー版となりました。今までより鮮明な写真を、お届けできるようになり、ご好評をいただいております。今後も本誌が会員相互の絆が更に深まることを念願し、編集してまいります。皆様のご協力を宜しくお願い致します。(塩塚) 2025.9.7 発行